

2017(仏暦2560)年冬(1月)号 (第101号)

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



■住職法話

如来さまの御恩をいただく

■～結ぶ絆から、広がるご縁へ～ ごえん

■本願寺の本

ずいえん 随縁 つらつら対談 / 釈徹宗 しやくてつしゆう

■お知らせ、編集後記

Photo

お寺から眺める浅間山ですが、昨年末頃から、煙の量が少し気になっています。日によって量に違いがあり、ここのところ普段と違うなと思いつつ、毎日観察しています。この地にも慣れてきた証あかしなのかなと思うところです。

住職 法話

如来さまの御恩をいただく

我が家の娘は、昨年十二月で五歳になりました。この四月からは年長になり、もう小学校のことも考えるようになりました。坊守（妻）も共働きのため、普段家にいる私が、朝夕と保育園に送り迎えすることが常になっています。

しかし、特に朝の登園時間に間に合うように送り出す時が大変で、家の中がまさに戦場のようです。たとえば、出発の時間に合わせてやってほしいことが、なかなか出来ないで娘を叱ると、私のちよつとした言い方が嫌だったようで、もう何を言ってもしなくなってしまう。そんなことが何度も続くと、私も何を

したらよいのかわからず、思わず大声を上げて怒ってしまいます。子育てにおいて、叱ることと怒ることの違いを身をもって学びましたが、その区別も付かずにも怒ってしまうのが現実です。言ってしまうから、子どもの態度をみて反省することはかなりです。

す。

『蓮如上人御一代記聞書』
蓮如さまは次のように仰っています。

他人の悪いところはよく目につくものである。しかし自分の悪いところはなかなか気づかないのである。もし自分でも悪いと気づくよ

うなら、よくよく悪いからこそ自分でも気づいたのだと反省して、心の内を改めていかねばならない。人が指摘して言うことには、ただただよく耳を傾けて、そのまま受け容れていくようにすべきであつて、なぜなら自分では悪いところがあるから気づかないからである。

悪いと気づいたらすぐに反省する。そして、繰り返さないように心改める。特に家族など身近な相手ほど、この当然と思うことがなかなか出来ないでしょう。続けて『聞書』に仰せになります。

万事につけ、善いことを思

いついたのも如来の御恩であり、悪いことだと思つて捨てたのも、如来の御恩です。悪いことを捨て、善いことを取ることができるとも、これらはみな、如来の御恩なのです。

過ちに気づくことこそ、如来の御恩という、どんなことでも如来さまが私たちを救うためになされたことであるといわれます。

娘の子育てを通して多くのことに気づかされることも、如来さまのお力によって子ども親もお育ていただいているのだなど、つくづく感じているところです。



「結ぶ絆から、
広がる「縁へ」

どうえん

「業縁」という言葉も使われます。「業」とは、行いを意味しています。インドでは、お釈迦さまの生まれる前から、輪廻思想の中で、善い行いをすれば楽な世界に生じ、悪い行いをすれば苦しみのお果があるとする因果応報の考え方があり、宿命論的な意味合いが強く、インドにおける差別的な身分制度の思想的背景になってきました。しかし、お釈迦さまは、物事は一つの原因によって常に移り変わり、固定的で変わらぬ私自身は無いという「諸行無常」・「諸法無我」の教えを説き、

「業」に関する宿命論的な見方を否定されました。仏教の縁起の体系はそのお釈迦さまのお心を根拠とするものであり、親鸞聖人もその心を継承していかれました。

しかしその後、お釈迦さまが否定したにもかかわらず、現実の事態を個人の過去世に責任を負わせる考え方とし、「過去からの業」によって差別を受けるのはしょうがない」といった諦めの論理として、「業」を利用してきた歴史があります。

さらに、親鸞聖人が『歎異抄』で「さるべき業縁のよほさば、いかなるふるまひもすべし」と言われたと伝えられるお言葉は、聖人の深い自己凝視、真実のありようが人知を超えていることを嘆じられたものであるにもかか

わらず、この言葉をも私たちは差別の現実を諦めさせていく論理として使用してきた歴史的事実を有しています。

これらの反省に立つたうえで、仏教の根本の教えである「諸行無常」・「諸法無我」そして「縁起」といった考え方を改めて問い直すとともに、自己を深く内省し、一人ひとりが抱える課題に真摯に向き合っていくことを行動へつなげたいと思います。

「縁の中に生かされている」という真実の教えを根拠として、自他共に心豊かに生きることのできる御同朋の社会をめざしていきましよう。

「編集・発行／浄土真宗本願寺派総合研究所、重点プロジェクト推進室」より

第25代専如門主 伝灯奉告法要

The Commemoration on the Accession of the Jodo Shinshu Tradition to the 25th Monshu Sennyō

法要期日

2016(平成28)年
第1期 10月1日(土)～8日(土)
第2期 10月20日(木)～27日(木)
第3期 11月4日(金)～11日(金)
第4期 11月18日(金)～25日(金)



2017(平成29)年

第5期 3月7日(火)～14日(火)
第6期 3月28日(火)～4月4日(火)
第7期 4月11日(火)～18日(火)
第8期 4月25日(火)～5月2日(火)
第9期 5月9日(火)～16日(火)
第10期 5月24日(水)～31日(水)

浄土真宗本願寺派 龍谷山 本願寺

TEL 075-371-5181(代) ホームページアドレス <http://www.hongwanji.or.jp>

～本願寺の本～

『随縁つらつら対談』

釈徹宗 著／本願寺出版社 刊 1,512円(税込)

僧侶で宗教学者でもある釈徹宗さんが、13人の個性派たちと織りなす、軽妙にして深遠なおしゃべり。西本願寺の月刊誌「大乗」に連載された「随縁対談」が待望の書籍化。

池上彰さん／ジャーナリスト

大村英昭さん／大阪大学名誉教授・僧侶

井上雄彦さん／漫画家

玉岡かおるさん／小説家

みうらじゅんさん／イラストレーター

香山リカさん／精神科医

西山厚さん／帝塚山大学教授・前奈良国立博物館学芸部長

駒澤勝さん／小児科医

杉本節子さん／料理研究家

伊東乾さん／作曲家・東京大学大学院准教授

篠原ともえさん／タレント

二木てるみさん／声優・俳優

天岸浄円さん／僧侶・布教使



(本願寺出版社HPより抜粋)

お知らせ

寺報101号、心新たに発行します。本年もどうぞよろしくお願い致します。

編集後記

連載の『ごえん』は、本号で終了となります。◆キーワードである「縁」は、「縁を頂いて」とか、何気なく私たちが使っています。◆「ご縁」で何なのかなと思うことも無かったのでしょう。そんな疑問を投げかけながら進めていく内容でした。少し難しい話もありましたが、まとめますと、仏さまからの大いなるお救いはもとより、私一人だけで生きているのではない、多くの「ごえん」によって私は生かされているんだと感ぜられたら、この連載は活かされたのだと思います。◆一通りゆっくり、また読み返してみたい。